

# 名古屋国際ビエンナーレARTEC全記録アーカイブ事業

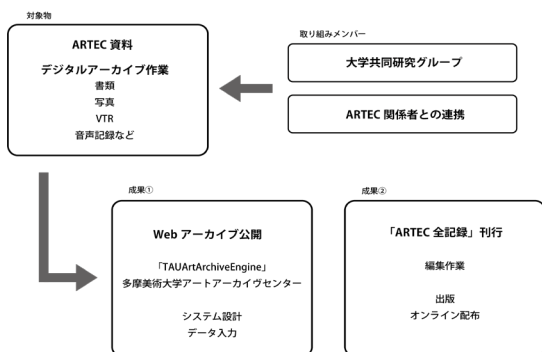
学校法人多摩美術大学

## 概要

名古屋国際ビエンナーレARTECは、1990年代に世界最大規模のアート& テクノ・サイエンスの作品が集まる国際的なアート・フェスティバルだった。ディレクターズ・グループが国内外で開催されたメディアアートフェスティバルやアーティストについて行ったインタビューやリサーチ調査の資料は、1980年代～90年代にかけての第一線級のメディアアート・シーンを知る上で貴重な資料である。残されたARTEC資料のデジタルアーカイブを行い、Webで公開するデータベースを構築する。また日本のメディアアートの歴史をたどることができる「ARTEC全記録」資料集を編纂する。

## 体制／手法

名古屋国際ビエンナーレ ARTEC 全記録アーカイブ事業 概略図



## 成果

- ・ ARTEC資料の整理とデジタルアーカイブ作業
- ・ メタデータリストの作成
- ・ Webデータベースの設計と構築
- ・ 「ARTEC全記録」資料集の編纂

### (公開方法)

- ・ Webによる公開：概要説明と成果物のダウンロード（公開中）
- ・ 多摩美術大学メディア芸術コース 森脇裕之研究室Web  
<http://www.idd.tamabi.ac.jp/~moriwaki/artec/>



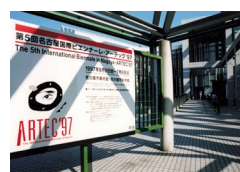
アーティスト資料



カセットテープ音声資料



第1回名古屋国際ビエンナーレARTEC'89ポスター



会場案内



公募展審査風景



シンポジウム



公募展表彰式

## (残された課題)

- ・ デジタルデータ化を終えた現物オリジナル資料の保管問題。
- ・ 倉庫、保管場所の専有、保存状態の維持管理など
- ・ デジタルデータ化されたものは、廃棄処分して良いものなのかどうか判断が付きにくい。

## (文化的・社会的・経済的な意義)

- ・ ARTEC開催中10年間にわたるメディアアートに関わる国際的な展覧会、出来事等の整理から、黎明期メディアアートの概況が解明される。
- ・ わが国のエレクトロニクスを中心にした技術立国日本を支えたハイテク産業と、そのアート表現の文化的な深い関係が明らかになる。
- ・ メディアアーティスト育成、メディアアート研究の有用な資料として、専門分野の人材育成に活用できるような教育的方策を考える。

